

那覇市社会福祉法人等施設の地域貢献活動「ちゅいネットなは」では、市民の困りごとや、生活課題に対し、具体的に問題解決を図っていきます。

活動	内容 (*社会福祉法人の地域への恩返し)
1 総合相談 トータルサポート	電話による見守り・安否確認を行うことで、健康状態や、困りごと、悩み、孤独感を知り、必要に応じて既存の制度や関係機関に適切につないだり、自立を支援するための相談支援を行います。
2 食料等支援 フードサポート	公的な制度や既存のサービスによる支援が受けられず、緊急性を要する生活困窮状態にある世帯に、食料などの提供を行うために、必要な食糧などを備蓄し必要に応じて提供します。
3 就労体験・社会参加 活動の提供ワークサポート	就労に不安がある方や就労や社会参加活動を希望する者に対し、社会福祉法人等施設の機能を活用し、就労の場や社会参加活動の機会を提供します。
4 移動支援 トランスサポート	社会福祉法人等の資源を活用し、社協、地域と連携し、中学校区内圏の買い物、居場所、通院などの送迎支援をお手伝いします。
5 居場所支援 プレイスサポート	地域の様々な居場所づくり(サロン・子どもの学習支援、子ども食堂等)ボランティア活動者の拠点として施設の開放等を行いサポーターの居場所を支援します。
6 福祉教育支援 ヒューマンサポート	地域の福祉を支える担い手の育成活動として施設の専門スタッフが、学校からの実習受け入れや、学校や地域に出向いての講話を行い福祉教育活動を応援します。(医療・保健・福祉教育分野の人材の派遣)
7 その他 地域支援	既存の制度やサービスでは対応困難な課題に対して、社会福祉法人等の資源を活用し必要な活動を行います。①見守り隊等地域の実態把握活動②民生委員・自治会への協力③福祉避難所④子育て支援等

## 那覇市内の社会福祉施設等から多くの寄贈を頂きました。

コロナ禍の折、那覇市内の社会福祉施設等から多くの寄贈を頂きました。誠にありがとうございます。早速、関係機関を通して生活困窮世帯や、子ども食堂等へ直接届けさせていただきます感謝申し上げます。保育施設では、園便りに募集したところ、保護者から「フードドライブに協力したかっ

たが、どこにもって行って良かわからなかったの、丁度良かった」と多くの食料が届けられました。那覇市内の社会福祉施設の皆様におかれましては、引き続きちゅいネットなはの食料提供(フードドライブ運動)についてご支援をお願い致します。



からし種の会 アトリエ種子



正清会 久田病院



乙羽会  
グリーンハウス国場



うるま福祉会  
玉の子保育園



南部療育医療センター  
(旧沖縄整肢療護園)

(3月1日～7月31日現在) 合計 1,471点

- |                          |                          |                                 |                          |
|--------------------------|--------------------------|---------------------------------|--------------------------|
| 1 就労支援サービス株式会社 代表 大畑昭康   | 2 小規模多機能ホーム安岡 代表 長堂和男    | 8 からし種の会 代表 棚原信子                | 9 相談支援センターテイクオフ 代表 佐藤誠   |
| 3 就労支援センターふくぎ 代表 国吉正人    | 4 アルプスセンター 代表 岡田拓也       | 10 そてつの会 代表 仲真良勝                | 11 乙羽会グリーンハウス国場 代表 我喜屋宗重 |
| 5 障害者就労支援センターさわやか 代表 高嶺豊 | 6 沖縄中央福祉会彩風の杜なは 代表 安里富士子 | 12 うるま福祉会 玉の子保育園 代表 高良桂子        | 13 正清会 久田病院 代表 与儀英明      |
| 7 ゆうなの会 代表 神谷幸枝          |                          | 14 南部療育医療センター (旧沖縄整肢療護園) 代表 當山潤 |                          |

## フードドライブ(食料提供)運動のご案内

- 募集期間** 令和3年(2021年)3月1日(月)～随時受付
- 募集内容** □米(2019年度、2020年度、2021年度米) □缶詰 □レトルト食品 □カップ麺 □防災品 □お菓子  
※全て未開封、賞味期限3か月以上あるもの ※特にお米の支援ニーズが多くなっています
- 受渡場所** 那覇市社会福祉協議会(那覇市総合福祉センター) tel.098-857-7766 担当:山城章

事前に下記の内容でメールまたはFAXをお願いします

那覇市社会福祉協議会へ ○月○日 時間帯(午前・午後/○時)頃に届けます。

fax 098-857-6052 mail 1101tyui@nahasyakyo.org

届け先/那覇市社会福祉協議会(那覇市総合福祉センター) 住所/那覇市金城 3-5-4

# なは地域貢献便り 9月

「なは地域貢献便り」は、那覇市内の社会福祉法人等施設が、地域の応援団として取り組む情報誌です。

## 令和3年度 第2～4回 那覇市社会福祉法人等施設連絡会開催!

本年度から4行政区の構成施設 25 法人による連絡会を3回に分けたズームによる会議を行いました。今回の会議では、法人間連携の試行的事業7つの活動分野ごとのアンケート再調査で、コロナ禍における取組とコロナ終息後における取組を分けて結果を共有しました。活動分野に基づく相談・食料支援・福祉教育の3分野の部会を開催し活発な意見が出されました。

行政、県社協始め、地域活動に精通している那覇市自治会連合会連合会会長上原幸吉氏、那覇市民生委員児童委員連合会事務局長の宮平智氏をお招きし、施設側に求めたい活動内容をお聞きしました。今回、アンケートの概要を報告し、連絡会の事項については次回11月号の地域貢献便りに掲載します。

## 7分野の活動におけるアンケート結果概要 調査対象施設数 24 法人 回答率 100%

活動分野(実施項目)	コロナ禍の中での取組について	コロナ終息後の中での取組について
1 身近な相談拠点	地域住民の相談があった場合には、21法人が関係機関(社協含む)へのつなぎの対応を行うことが出来る。	地域住民の相談があった場合には、21法人が関係機関(社協含む)へのつなぎの対応を行うことが出来る。
2 食糧支援	集める、届ける、備蓄する、聞き取りシート等何らかの形で協力出来る法人は14法人あった。	集める、届ける、備蓄する、聞き取りシート等何らかの形で協力出来る法人は17法人あった。
3 就労体験・社会参加活動の提供	何らかの形で協力出来る施設は、10法人あった。	何らかの形で協力出来る施設は、10法人あった。
4 移動支援サービス	何らかの形で協力出来る施設は、7法人あった。	何らかの形で協力出来る施設は、8法人あった。
5 居場所支援	何らかの形で協力出来る施設は10法人あった。	何らかの形で協力出来る施設は15法人あった。
6 福祉教育	何らかの形で協力出来る施設は12法人あった。	何らかの形で協力出来る施設は21法人あった。
7 その他の福祉サービス	何らかの形で協力出来る施設は22法人あった。	何らかの形で協力出来る施設は23法人あった。



### 所見

現状のコロナ禍からコロナ終息後における変化は、居場所、福祉教育、その他の分野において、「はい」の回答が増えている。

また、7つの分野すべてにおいて、検討の回答が増加傾向にあったことから、状況によっては、協力可能な法人も増えていく可能性もある。

## 本年度のちゅいネットなはの目標

- 1 行政区毎の小緑地区を加えた25法人のプラットフォーム(連絡会)の設置
- 2 試行的モデル事業に伴う市内法人への調査・集計分析・協議
- 3 関係機関(民児協・自治会連合会・行政・企業)とのプラットフォームの設置
- 4 移動支援モデル事業の試験的実施に法人と協議体の連携が出来ている。
- 5 フードドライブ運動の実績を法人間で共有し連携の在り方を協議する。

裏面ページへ続く

9月以降に、市内全法人にアンケートを依頼し、その結果を紙面を通して共有させていただきます。

ちゅいしいじい(小規模法人ネットワーク化事業)のホームページを作成しました <http://www.nahasyakyo.org/>

発行 社会福祉法人 那覇市社会福祉協議会 ☎098-857-7766 (2021.9.1)



# 誰の中にもある赤十字のこころ

日本赤十字社沖縄県支部 事業推進課長 池原栄作 氏



## 赤十字って何なん!?

みなさんにとって「赤十字」は、どんな存在でしょうか、、、身近なところでは、「献血（血液センター）」や「赤十字病院」などが多くの方々に認知していただいていることと思います。

赤十字は、約 150 年の歴史と世界最大のネットワークを持つ国際的な民間の団体で、赤十字の基本原則「人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性」（7原則）のもと、いつでもどこでも人道的活動を迅速に行うための組織です。

県内には、赤十字病院（医療事業）、赤十字血液センター（血液事業）、安謝福祉複合施設（福祉事業）の施設があり、各事業とその他の事業を担う支部事務局があります。

日本赤十字社の事業

- 国際活動
- 国内災害救護
- 看護師等の養成事業
- 救急法等の講習
- 赤十字ボランティア
- 青少年赤十字

日赤沖縄県支部

- 医療事業
- 社会福祉事業
- 血液事業

赤十字病院

安謝福祉複合施設

血液センター

事業概要

災害時避難所での活動

## 寄り添い、苦痛を軽減する

支部事務局では、救急法等の講習普及事業、赤十字ボランティアの育成事業、国内災害時における救護活動（赤十字病院常設救護班）が主な内容となっています。

これらの赤十字支部で担う事業は、皆様方からお寄せいただく寄付（活動資金）により行われています。主なものとしては、地震や台風などの災害で避難所などへ避難された方々へ届けられる救援物資の整備や救急法等の各種講習会の開催などがあります。

コロナ禍においても、災害はいつ起こるかわかりません！昨年の令和2年7月豪雨災害において、赤十字病院の救護班2班を派遣し、また、令和3年6月末の大雨の際も支部事務局から救援物資を複数の避難所等に届けました。

救援物資

- 【毛布】(清潔パック)
- 【タオルケット】(清潔パック)
- 【救急セット】トレーニングウェア、バスタオル
- 【救急セット】キッチンペーパー(国産調の動物)、缶、アイスマスク、スリッパ、蒸気、靴下等
- 【救急セット】懐中電灯、ラジオ、ウェットティッシュ、スプレー、絆創膏、手洗剤、ロープ、その他日用品
- 【ブルーシート】3m x 5m

救援物資配送前の詰め込み

いつ起こるか分からない災害に備え、赤十字は防災教育にも力を入れております。

防災セミナーや災害時高齢者支援講習等、学校や会社、自治会等の要望に応じ開催しています。

ただ、昨年より沖縄県庁のコロナ対策本部への支部事務局職員を断続的に派遣していることや集団での講習が感染拡大につながる恐れがあることから、当面は各種講習が開催できない状況であります。

コロナ感染が収束して環境が整えば、救急法や幼児安全法等の各種講習会を順次再開してまいりますので、是非ともお声がけ下さい。

不測の事態に備えた対応を、家庭で職場で地域で取り組むことにより防災力を高めてまいります！

## 安謝福祉複合施設の紹介

安謝市営住宅の建替事業に合わせて平成10年に那覇市の委託事業として開設されて以来、地域に根ざした施設運営を行っています。介護老人福祉施設（特養 100 床・短期入所 5 床）、老人デイサービスセンター、居宅介護支援事業所、老人憩の家、児童館、シルバーハウジング等の施設が併設されており、各事業の特色を生かした横断的なふれあいをとおして、「世代間交流・施設間交流・地域間交流」を実践しています。小学校や保育所、児童クラブも隣接しており、地域の皆さんに開放された環境となっています。

施設利用者の多種多様なニーズや新しい時代の社会福祉に対応可能な施設となりえるよう、地域及び関係機関との連携を密にし、施設及び地域発展に取り組んでいます。

施設利用者と子どもたちのふれあい



「自分には救護活動はできないが、寄付なら。。。」「献血は身近なボランティア！」など、「苦しんでいる人を助けたい!!!」という気持ちそのものが「赤十字のこころ」なのです。

# エンタメと福祉でまちづくり

社会福祉法人若杉福祉会 理事 屋宜貢 氏



## 若杉福祉会の紹介

当福祉会は大名地域のニーズに応える為に昭和 52 年に保育所を設立、今年で 44 年になります。これまで地域の児童福祉に寄与し、より良い環境の中で心身共に健康な乳幼児期がおくれるようにまた保護者さんが安心して働けることができるように事業展開しています。平成 19 年には那覇市より保育所を受託し城北保育園としてスタート。平成 32 年 1 月に大名児童館の指定管理者として運営スタート。近年では誰もが暮らしやすいまちづくりを目指し、積極的に地域プロデュースに取り組んでいます。その一貫で「那覇市制 100 周年記念」市民ごちゃまぜミュージカルをプロデュース、次の 100 年に残る舞台を通して、世代を超えた創造の喜びを共有し、子どもからお年寄りまで、障がいの有無や国籍を超えて、ごちゃまぜになって歌と踊りを通して賑わいのある魅力ある那覇市を県内外へ発信していきたい。舞台本番は 2022 年 2 月 13 日（日）。ぜひご家族・友人同士でご鑑賞してください。「那覇市民ごちゃまぜミュージカル」で検索

がり 7/3 は首里地区 3 か所で行った。そこからさらに広がり 7/20、8/3 は那覇市内 11 ヶ所の校区まちづくり協議会（大名、石嶺、城東、城南、城西、若狭、曙、天妃、真和志、金城、小祿南）が参加し、8 ヶ所（大名、石嶺、首里、若狭、繁多川、小祿南、真和志支所、市社協）にて高齢者ワクチン接種予約のお手伝いを実施しました。地域課題解決に向けて、更に細かなところまでお手伝いが行き届くためには校区まちづくり協議会や民生委員など関係機関との連携が重要だと認識した活動でした。



## 地域福祉の拠点づくり

園児や保護者、地域、卒園児との関係を深く継続し、地域福祉の拠点としてみんなで子どもたちの成長を見守り続けられる環境をつくっていただければと願っています。



## 地域の法人だからできる柔軟な対応 大名児童館（無料塾等）

コロナ週で子どもたちの塾通いなど経済的に厳しいという相談があり、大名小校区まちづくり協議会と合同で誰でも気軽に参加できる無料塾を夕食付で週 1 回実施し、口コミで広がり毎回定員 20 名を超える人気事業になっています。また中高生から軽音楽の練習場所を求め声があり、2 階の映写室を防音工事して小中高生のバンド練習の場として提供。児童館で主に練習している高校生「ヒカリバンド」が県内の大会で優勝するなど活躍。たくさんの高校生バンドが通うようになり、高校生が小中学生に勉強を教えており、様々な行事に積極的に手伝いをする良い環境が生まれてきています。



## 那覇市校区まち協による 高齢者ワクチン接種予約お手伝い（「近所で近助」ワクチン接種支援プロジェクト）

ワクチン接種予約が取りづらいなど、多くの声が聞かれたため、大名小まち協と私ども福祉会合同で大名児童館にてワクチン接種予約のお手伝いを 6/22 に実施。課題や必要性を再認識し、首里地区の各校区まちづくり協議会へと広